

フキノトウ（キク科）

観察のポイント

フキノトウは春一番の山菜です。天ぷらにしたりふき味噌にしたり、春の香りを楽しみます。フキノトウはフキの花で、花が終わると大きな葉っぱが出てきます。フキもまた山菜として楽しめます。食べたことあるかな？少つまんで匂いを嗅いで見よう。

キジムシロ（バラ科）

観察のポイント

キジムシロとは「キジのむしろ」ということで、むしろとはわらなどで編んだ、敷物のことです。根のある中心から四方に葉や茎を伸ばします。黄色い縁取りのある座布団みたいで、キジは座ってくれるのかな？

センボンヤリ（キク科）

観察のポイント

この花は春と秋の2回花を咲かせます。秋の花はかわいらしい春のものと全然違って、開くことなくつぼみのまま終わってしまいます。これは自分で種を作る閉鎖花というものです。この閉鎖花は花の茎が50センチにもなり、それが何本も並んでいる様子は、槍がたくさん並んでいるように見えるので「千本槍」と名が付けました。

ウスバサイシン（ウマノスズクサ科）

観察のポイント

この植物はヒメギフチョウの食草として有名です。ハート型の葉っぱの下に隠れて、地面ぎりぎりに目立たない茶色の花を咲かせます。しゃがんでそっと観察してみよう。小さな虫が花粉を運んでいるかもしれません。

オキナグサ（キンポウゲ科）

観察のポイント

花の後にできる実が白くふさふさしているので、おじいさんの白髪にたとえてこの名が付けました。お花も茎も葉っぱも全身毛だらけです。どうしてこんなに毛むくじゃらなのか考えてみよう！

タチツボスミレ（スミレ科）

観察のポイント

自然の家にはたくさんの種類のスミレがありますが、一番多く見かけるのがこのタチツボスミレです。茎から葉が出るところに付いている小さな葉はギザギザです。これはタチツボスミレの仲間の特徴です。

サクラソウ（サクラソウ科）

観察のポイント

サクラソウは野生ではなかなか姿を見られなくなった植物です。花をよく見れば、虫ピンの頭のようなめしべが見える花と、おしべのギザギザが見える花があるよ。おしべとめしべの長さを変えて、自分で受粉をしないように工夫をしています。マルハナバチが花粉を運びます。

ミツバツツジ（ツツジ科）

観察のポイント

葉っぱが3枚ずつ付くのでこの名前が付けました。花は葉っぱよりも先に開き、春先に花の少ない自然の家の花壇をピンク色に染めてくれます。



オキナグサ

オキナグサ (キンポウゲ科)



フキノトウ

フキノトウ (キク科)



タチツボスミレ・サクラタチツボスミレ
タチツボスミレ・サクラタチツボスミレ (スミレ科)



キジムシロ

キジムシロ (バラ科)



サクラソウ

サクラソウ (サクラソウ科)



センボンヤリ

センボンヤリ (キク科)



ミツバツツジ

ミツバツツジ (ツツジ科)



ウスバサイシン

ウスバサイシン (ウマノスズクサ科)